
JSiSE 2018 年度公開シンポジウム

9月6日（木）

テーマ「ICT を用いた聴覚障害学生支援

13:30～15:30

–北海道の大学における現状紹介とパソコンテイク体験–

聴覚障害学生が講義中に取得できる情報の格差を解消するための情報保障への取組みは、障害者差別解消法の施行以前から行われて来た。同法の施行に伴い、その必要性は増してきており、そのための体制を整備中の大学も多いと言える。

情報保障の1つの手段として、教室内での教員の発話を、筆記者がノートPCでタイプ・文字化して聴覚障害学生に提示する「パソコンテイク」がある。パソコンテイクは専用ソフトを使用するほか、遠隔地との通信や、最近ではiPadの活用なども合わせて行われている。これらはICTをベースとした支援であることは改めて言うまでもないが、この支援を担っているのは、障害学生が在学する大学の学生である場合が多い。一見すると、学生達はそれらの支援を難なくこなしているように見える。しかし、教員の発話をリアルタイムでタイプする作業には習熟を要し、90分間集中し続けることは容易ではない。そのため教員側にもある程度の配慮が必要とされることが多い。

上記からも分かるとおり、障害学生支援の充実を図るためには、教職員がこのような実務的な側面についても理解しておく必要がある。

本シンポジウムではまず、ICTを用いた聴覚障害学生支援の現状について、北海道の大学における現状を紹介する。その後、学生講師たちによるパソコンテイク講習を受講する形で、実際にパソコンテイクを体験していただく。

オーガナイザ： 皆川 雅章（札幌学院大学）

定員： 機器の準備の都合上、パソコンテイク体験は30名程度を予定しています。
本シンポジウムは、大会参加登録をしていない方も参加可能です。

会場： 北星学園大学 C700 教室

主催： 教育システム情報学会 北海道支部